

## 令和7年度「長野市男女共同参画週間講演会」実施報告

- 1 目的 国が実施する「男女共同参画週間」に合わせ男女が互いにその人権を尊重し、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、市民意識の醸成を図るもの
- 2 日時 令和7年7月6日（日） 午後2時から午後4時まで
- 3 場所 勤労者女性会館しなのき
- 4 主催 長野市
- 5 共催 長野市子育て支援事業所連絡協議会
- 6 後援 信濃毎日新聞社・SBC信越放送・NBS長野放送・TSBテレビ信州・abn長野朝日放送・NHK長野放送局・FM長野・FMぜんこうじ・INC長野ケーブルテレビ・朝日新聞長野総局・毎日新聞長野支局・読売新聞長野支局・週刊長野新聞社・長野市民新聞社・長野経済新聞社
- 7 講師 上野 千鶴子 さん（社会学者）
- 8 演題 若者世代に伝えたい「ジェンダー平等社会」  
（60分間講演、その後30分間は事前応募のあった中学生から大学生までの5人からの質疑応答コーナー）
- 9 開催方法 ホールでの聴講と、施設内別室（視聴覚室）でのライブ視聴  
手話通訳及び要約筆記を実施
- 10 参加者数 247人（女性 206人、男性 41人）
- 11 取材報道機関 信濃毎日新聞（編集局文化部、諏訪支局）、長野市民新聞、市民協働サポートセンター、長野県NPOセンター
- 12 その他
  - ・講演に先立ち、令和6年度長野市男女共同参画優良事業者賞を受賞した「NiKKi Fron株式会社」より挨拶
  - ・会場において、男女共同参画社会の実現に向けた啓発パネルを展示

## 令和7年度「長野市男女共同参画週間講演会」アンケート調査結果

1 調査方法 会場来場者へアンケートを直接配布し、回収。

2 アンケート回答数 207人（女性171人 男性33人 その他3）

### 3 集計結果

(1)

Q 性別

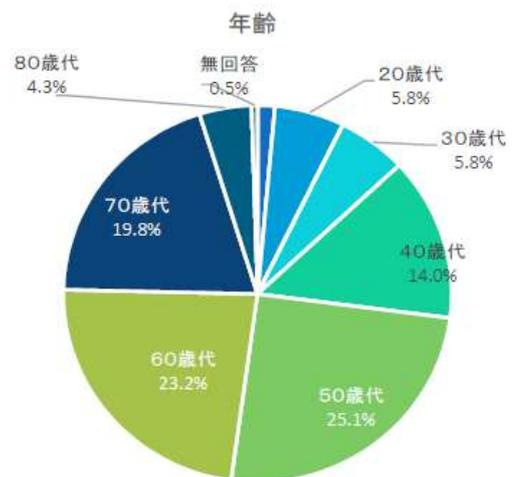
女性	171
男性	33
その他	1
答えたくない	2



(2)

Q 年齢

20歳未満	3
20歳代	12
30歳代	12
40歳代	29
50歳代	52
60歳代	48
70歳代	41
80歳代	9
無回答	1

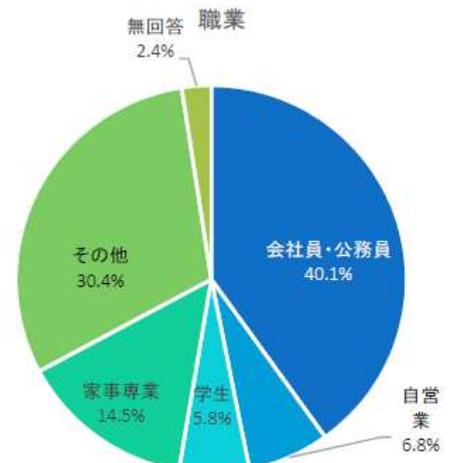


(3)

Q 職業

会社員・公務員	83
自営業	14
学生	12
家事専業	30
その他	63
無回答	5

【その他】パート・会計年度任用職員、無職など

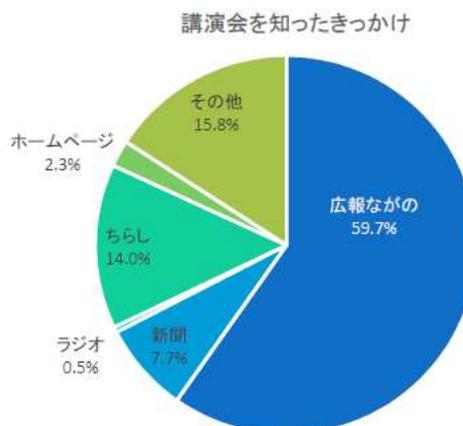


(4)

Q この講演会をどのようにしてお知りになりましたか。  
(複数回答可)

広報ながの	132
新聞	17
ラジオ	1
ちらし	31
ホームページ	5
その他	35

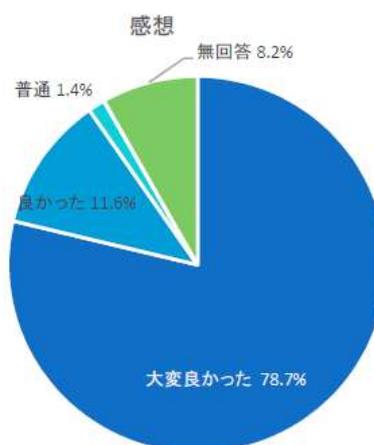
【その他】 友人・家族からの紹介、しなのきポスターなど



(5)

Q 感想をお聞かせください。

大変良かった	163
良かった	24
普通	3
良くなかった	0
無回答	17



#### 【具体的な感想(抜粋)】

- ・ 大事なお話を聞いてよかった。対談も面白かったです。男性の参加もあればよかったかな？
- ・ 上野先生の話を楽しみながら知識を深めることができました。表向きでは変わっていても裏を返せば知らないことやまだまだ改善しなくてはならにことがたくさんあり驚きました。
- ・ もっと広い会場でもっと多くの方に聞いてほしかった。オンライン配信があってもよかった
- ・ 特に質問コーナー。女なのに女だから男なのに男だからという概念がおかしいと思う若者がいることに希望がもてた
- ・ 上野先生にぐっと親近感がわきました。政治、人災がつくった環境に身を置いていること、自分も現状を受入れすぎず更によりよい方向へ改良できるよう長い列へ加わりたいと思います。
- ・ プロジェクターの字（特に表）が小さくわかりにくかった。
- ・ 市長、知事に聞いてほしかった。
- ・ ほとんどが女性の聴講者だった。これでは社会は変わらない。上野さんの話に笑っている人も多かった。このような女性達が女性の足を引っ張っている。
- ・ 法整備と規制緩和のことなどはっと気づかされました。学生さんたちとの対話もとてもよかったと思います。
- ・ 地方女子たちの話が自分にとって身近で考えやすいテーマで深く考えるきっかけになった。

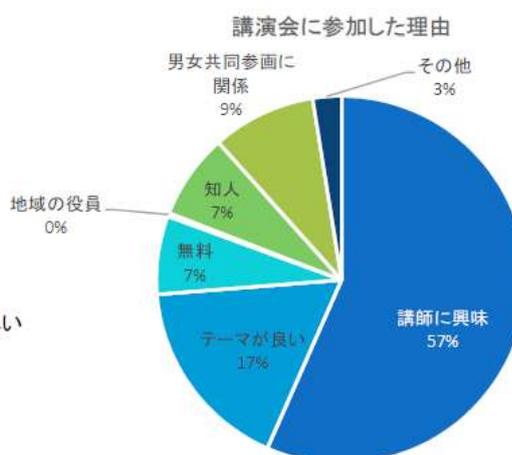
- ・わきまえグセ、この言葉胸にささりました。自分自身が固定観念にとらわれていることに気づかされました。
- ・マイクロアグレッションという言葉で定義してもらったおかげで理解が深くなった
- ・気づかず受け入れていた男女差別、いつももやもやしていたのはこのせいだと思った。ひどく腹立たしくなったが、黙っていたら何も変わらないと感じた。データに基づいた楽しい語り口調であったという間の時間でした。
- ・私は新入社員です。会社で「いつ結婚するつもりなの」「子供いらぬのはどうして」と言われニコニコ笑ってごまかしていた自分は次の世代への加害者になりうるということに気づきました。「沈黙は同意、笑いは共犯」という言葉を心に刻み、私の世代でもう食い止めたいと思います。
- ・後半なんでかわかりませんが涙が出てきました、大学生の娘には私たち世代のような体験をしてほしくないです。
- ・若い人たちに向けてでなく中高年向けにジェンダーの話をしていただきたかった。中高年の女性が若い女性達への不安を取り除くにはどうすればよいか聞きたかった。
- ・質問コーナーはよくなかった。かみ合っていない。5人がかわいそう
- ・統計など数字をふまえてのお話で笑いもあり理解しやすく勉強になりました。学生さんとの対談も学生さんの考えを引き出そうとするお話の運びをされていて自分で調べる、考えるという思考を当たり前にされていてでは自分はどうかを考えさせられました。背筋の伸びる思いでした。
- ・自分の未来が暗いことがわかった
- ・選挙前の上野さんのお話よかったです。政権がかわればいいと思います。

(6)

Q 講演会に参加した理由(複数回答可)

講師に興味	181
テーマが良い	55
無料	22
地域の役員	1
知人	24
男女共同参画に関係	29
その他	8

【その他】 上野さんのファン、ジェンダー平等の正しい理解をしたかった等

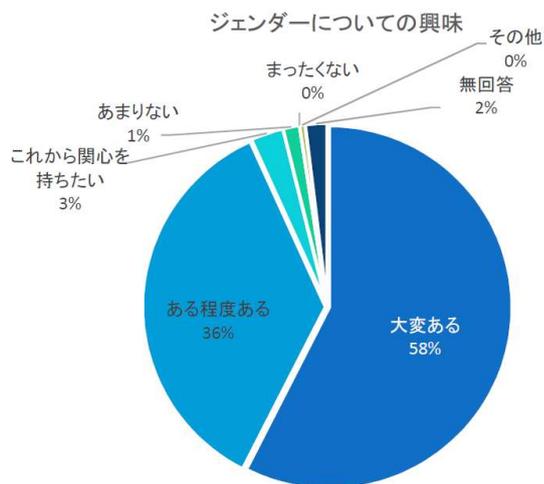


(7)

Q ジェンダー・男女共同参画について興味があるか。

大変ある	119
ある程度ある	74
これから関心を持ちたい	6
あまりない	3
まったくない	0
その他	1
無回答	4

【その他】 わからない



(8) ジェンダー平等実現に向けてあなたができることはどんなことですか。

【自由記載（一部抜粋）】

- ・当事者として不平等さや生きづらいことを呼び掛け続けていくべきだと思います。
- ・身の回りの古い慣習や意識を少しずつでもおかしいと言っていくこと
- ・シスターフッドをつくっていくこと。男性にもそのネットワークに入ってもらふこと
- ・自分の子どもとジェンダーについて語り合う。そのためにもジェンダーについて学ぶ
- ・あきらめず自分を出す。多種多様な人々を受け止める。
- ・自分の周りの男性の意識を少しずつ変えるように努力したい。
- ・おかしいことは周りと話をする。おかしいことを次の世代へ引き継がないよう意識する。
- ・教育の分野で女子が低い、学ぶ機会が与えられていない、ここの部分を地域家庭から見直すことが大切である。女性の声をもっとしっかり受け止められるような自由に発せられるような体制をつくっていく必要がある。
- ・わきまえない人（女）になること。
- ・あたりまえとってきたことに疑問をもつ気持ち。変えられないとはなから思わないこと。
- ・男性にも興味をもってもらいたい。
- ・ジェンダー平等と男女平等の使い分けがわからない。
- ・子育て中で自分の子どもが生きやすいように家庭での環境を作っていきたいと思った。
- ・地域でできることがあれば参加したい。
- ・わきまえない、めんどくさい、うるさいおばさんになろうと思います！まずは家庭内！我が息子や娘にジェンダー感覚のある子に育てたい。家事の分担！来年度はコラムニストのジェーンさんの話きいてみたい！
- ・自分が一生懸命働いて、楽しく生きる姿を娘たちに見せること。
- ・娘が自分の人生を自由に選べるように親が娘の人生に乗りかからないこと。地方の女子でも自分が選択した人は満足度が高いというお話が大変印象的でした。
- ・その場しのぎで「男性を立てる」「うるさいことを言わない」といった選択をして、ことなかれ主義で生きていくのをやめる。「私なんか」という自虐もやめる。今まで生きてきた中で刷り込まれてきた「よい女性」としてのふるまいを一つ一つ変えていくことが私にできることだと思います。

- ・女性だけの負担だけでなく性別関係なくいろいろ分担していくべきだが。長野市の役職の男女比は？
- ・私は高校生男子を育てる母です。自分の意識のアップデートとともにそれを息子にも共有していきたいです。
- ・行政に訴えること。選挙でジェンダーに理解のない政党には投票しない。
- ・女性活躍の地盤づくり、投票行動
- ・男の子を希望され続けましたが、三姉妹が生まれてうれしかったです。その三姉妹も全員県外の大学に進学しました。これが私にできることです。
- ・男性側の意見、言い分もある。平等にするのは困難だが、ディスカッションする場を増やしたい、増やしてほしい。
- ・極めて男女不平等な業界で前例を打ち破ってきた。ストレスやマイクロアグレッションは日常茶飯事だが、何とか健康を維持しながらわきまえない女として業界に残りたいと思う。
- ・私は医師ですが医学部を受験した25年前、医師の世界は男社会で女医は苦勞する、どうして目指すのかということ面接の練習等でも話したりする時代でした。当時2割だった母校の女子入学率も、今は5割に届く勢いです。数が増えて仕事上での男女差別などを感じることも少なくなり働けるのは楽しいです。諦めなければ変わっていくということを先生の今日のお話でも改めて感じることができました。これからも意識をもって働き続け、職場を変えていきたいです。病院長はおじさんが多いので次はそこを変えたいです。